

腎免疫血管内科

■小林 修三 副院長，医学博士

浜松医科大学 1980年卒業

浜松医科大学大学院 1986年卒業

日本内科学会評議員，

日本フットケア学会理事長，

日本医工学治療学会理事，

日本下肢救済・足病学会理事・評議員，

日本腎臓学会評議員・指導医，

日本高血圧学会評議員・指導医（FJSH），

日本病態栄養学会評議員・専門医，

日本急性血液浄化学会理事・評議員，

日本透析医学会評議員・指導医，

日本腹膜透析学会評議員，

日本アフェレシス学会評議員，

日本臨床ゲノム医療学会理事

■日高 寿美 腎免疫血管内科部長，医学博士

浜松医科大学 1985年卒業

日本内科学会総合内科専門医，

日本腎臓学会評議員・指導医・専門医，

日本透析学会指導医・専門医，

日本フットケア学会理事・評議員，

日本病態栄養学会評議員・専門医，

日本アフェレシス学会認定血漿交換療法専門医，

日本急性血液浄化学会認定指導者，

日本医工学治療学会評議員

■大竹 剛靖 腎免疫血管内科主任部長，医学博士

浜松医科大学 1987年卒業

日本腎臓学会評議員・指導医・専門医，

日本内科学会認定内科医，

日本透析医学会指導医・専門医，

日本フットケア学会理事・評議員，

日本下肢救済・足病学会評議員，

日本病態栄養学会評議員，

日本医工学治療学会評議員，

日本再生医療学会代議員

■守矢 英和 血液浄化センター長

防衛医科大学校 1994年卒業

日本内科学会指導医・総合内科専門医，

日本腎臓学会指導医・専門医，

日本透析学会指導医・専門医，

日本高血圧学会専門医，

日本アフェレシス学会評議員・認定専門医，

日本フットケア学会評議員，

日本下肢救済・足病学会評議員

■岡 真知子 腎免疫血管内科医長

東海大学 2001年卒業

日本内科学会認定内科医，日本腎臓学会専門医，

日本透析学会専門医

■石岡 邦啓 腎免疫血管内科医長

札幌医科大学 2004年卒業

日本内科学会認定内科医

■持田 泰寛 腎免疫血管内科医長

北里大学 2005年卒業

日本内科学会認定内科医

■真栄里 恭子（非常勤）

琉球大学 1996年卒業

日本内科学会認定内科医

■松浦 亮

■吉田 輝彦

■田村 友美

【診療】

<人事>

日高寿美血液浄化センター長が4月より腎免疫血管内科部長へ異動し、守矢英和腎免疫血管内科部長が同月より血液浄化センター長へ異動となった。持田

泰寛医長は、重症多臓器不全患者を含めた急性期重症患者への腎臓内科診療，特殊血液浄化療法をさらに推進し，重症患者の救命に寄与すべく，2013年10月から当院集中治療部医長となっていたが，2014年11月当科医長へ復職した。

3月末で長谷川正宇医師が退職し，4月より吉田輝彦医師，田村友美医師の2名が加わり，後期研修医は松浦亮医師と合わせて3人となった。

<学業，研究活動>

世にものを問う姿勢で日々の診療にあたっているが，その結果を反映し，当科の医師は，毎年各種学会や研究会で多くの優秀賞を受賞している。2014年は持田泰寛医長が第28回神奈川県CAPD研究会（3月1日 横浜）で優秀演題賞を受賞した。その他，業績にあげるように，特別講演，招待講演，シンポジウム，一般発表ほか多数の学会発表を行っている。

2014年は，第3回マゴットセラピー研究会を小林修三副院長を大会長，守矢英和部長を事務局長として，4月19日当院別館講堂を会場として開催した。「PAD治療におけるマゴットセラピーの位置づけと今後の展望」をメインテーマとし，2つの特別講演とテーマに沿ったシンポジウム，一般演題10題で活発な研究会となった。当科で研修を行った中島みなみ先生の「成長因子を介したマゴットセラピーの効果発現機序」の発表や，形成外科近藤健司医師による「マゴットセラピー対外科的デブリドマン」，形成外科 山下理絵部長の「PAD診療におけるマゴットセラピーの位置づけ」（シンポジウム発表）など，当院からも多くの発表を行った。

<診療>

現状では腎不全への進展阻止が困難な多発性嚢胞腎への個別的な積極的診療取り組みを開始した。本

年5月より，日高寿美部長が嚢胞腎外来を立ち上げ，嚢胞縮小，腎機能維持・改善を目的とした薬剤投与による診療を行っている。

透析患者の重症下肢虚血は直接的に生命予後に関わる大きな問題であり，救肢・救命を目的として，当院でも血行再建術（血管内治療や外科的バイパス術）や局所創傷治療が行われている。しかし，これら治療でも改善しない患者での救肢・救命は非常に困難である。当科では，このような患者を対象とした血管再生医療に取り組んでいる。再生医療への取り組みは，ヒト幹倫理審査委員会，厚生労働省科学技術部会での厳しい審査で承認され，厚生労働大臣の承認意見書を得て初めて行う事ができるが，上記審査と許可を得たうえで，2014年9月より「維持透析療法中の慢性重症下肢虚血患者を対象とした自家末梢CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法」を開始した。これは，透析患者自身からG-CSF投与により増幅した末梢血単核球からCD34陽性細胞のみを分離回収し，虚血下肢へ投与する治療である。今後症例を重ねて安全性、有効性の検証を行う予定である。

<腎移植の促進>

腎移植の促進のため，腎移植外科と連携して移植医療にあたっている。隔週で行われる移植カンファレンスに，小林副院長以下腎臓内科全員で参加し，症例ごとに移植の適格性や，移植前から移植後にかけての医学的管理について検討し，移植後のレシピエント，ドナーの管理を移植外科とともに行っている。すでに透析を受けている患者のみならず，透析導入前の腎不全患者に対する腎移植（pre-emptive kidney transplantation: PEKT）も積極的に行っているのが当センターでの移植医療の1つの特徴である。

<教育>

「腎臓内科はわかりにくい・むずかしい」という言葉が若い先生たちからたびたび聞かれる。腎臓病は多くの診療科にまたがるもので、腎臓病をもっとわかりやすく理解してもらうことが必要と考えてきた。そこで、研修医や腎臓を専門としない他科の先生方に、わかりやすく実践的に腎臓病を理解してもらうために、「あらゆる診療科で役立つ！腎障害・透析患者を受けもったときに困らないためのQ&A」を小林修三副院長編で出版し（2014年4月10日第1刷発行）、当科スタッフが分担執筆を受け持った。当院研修医をはじめとして全国的に非常に好評である。

<展望>

2015年は、今まで行ってきた腎炎、腎不全、多臓器不全、腎移植の診療をさらに発展させることに加えて、糖尿病性腎症に対するLDアフェレシスの先進医療取得、CD34陽性細胞移植による透析患者の下肢血管再生医療の推進、CKD病診連携システムの構築と実践を行って行きたい。

【診療実績】

2014年の年間入院患者数、外来患者数、腎生検検査施行内訳を以下に示す。

表1. 2012-2014年 診療実績データ

	2014年	2013年	2012年
新入院患者数	568人	532人	569人
延べ入院患者数	10,227人	11,033人	11,025人
延べ外来受診患者数	13,438人	13,416人	13,153人

表2. 2014年 腎生検

病理分類	症例数
微小糸球体変化	5
メサンギウム増殖性腎炎	40
(IgA腎症)	23
(Non-IgA腎症)	17
微小変化	5
膜性腎症	2
膜性増殖性糸球体腎炎	2
巣状糸球体硬化症	1
管内増殖性糸球体腎炎	2
壊死性半月体形成性腎炎	7
ループス腎炎	3
糖尿病性腎症	9
原発性アミロイドーシス	1
良性腎硬化症	3
悪性腎硬化症	1
血栓性微小血管症	1
尿細管間質性腎炎	6
(骨髄腫腎)	3
(コレステロール塞栓症)	2
(急性尿細管間質性腎炎)	1
急性尿細管壊死	5
移植腎生検	37
合計	137

【発表を含めた2014年1年間の業績】

(1) 特別講演

- 1) 小林修三：糖尿病・透析患者における心血管障害。琉球透析医療を考える会，沖縄，2014.
- 2) 小林修三：透析患者における下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略。第2回千葉東部透析フットケア懇談会，千葉，2014.

- 3) 小林修三：透析患者の心血管障害. 第1回大隅エリア透析医療を考える会, 鹿屋, 2014.
- 4) 小林修三：足は全身の鏡～PADの早期発見と治療～第6回京都透析合併症セミナー, 京都, 2014.
- 5) 小林修三：CKD・DMにおける下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略. 第29回近畿MMC研究会, 大阪, 2014.
- 6) 日高寿美：透析患者の動脈疾患に対する治療戦略. 第12回中部腎臓病医の会 (CSWN), 名古屋, 2014.
- 7) 大竹剛靖：慢性腎不全の治療選択 腹膜透析はなぜもっと普及しないのか？遠州腹膜透析セミナー～腹膜透析の新たな可能性を展望する～. 浜松, 2014.
- 8) 小林修三：ストップ 慢性腎臓病～早期発見とその治療 CKDセミナーin神奈川, 横浜, 2014.
- 9) 大竹剛靖：医工学技術を駆使したPAD診断と透析患者のPAD診療. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.
- 10) 小林修三：透析患者における認知症～脳血流との関係～10th Shonan Tokyo Renal Conference, 東京, 2014.
- 11) 小林修三：PADの早期発見と治療～循環器内科医に期待すること～第44回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2014.
- 12) 小林修三：透析患者におけるPAD～早期発見と治療戦略. 第22回神戸・透析と情報懇話会, 神戸, 2014
- 13) 小林修三：透析患者における心血管障害～その病態と対策～第88回東海透析研究会, 愛知, 2014.
- 14) 小林修三：CKDにおける心血管障害～石灰化とリン管理～Hyperphosphatemia Treatment Conference, 仙台, 2014.
- 15) 小林修三：透析患者の糖代謝と動脈硬化. Hemodialysis Forum in Okinawa, 沖縄, 2014.
- 16) 小林修三：透析患者におけるPAD～早期発見と治療戦略. 第22回神戸・透析と情報懇話会, 神戸, 2014.
- 17) 小林修三：ランチョンセミナー17 CKD合併下肢閉塞性動脈硬化症 (ASO) をいかに診断・治療するか. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 18) 守矢英和：透析患者におけるPAD～全国調査より見える診療の実態～第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 19) 小林修三：慢性腎臓病におけるPAD～早期発見と治療戦略～第7回信州透析フットケア研究会. 第8回信州Vascular Meeting合同講演会, 長野, 2014.
- 20) 日高寿美, 持田泰寛, 守矢英和, 大竹剛靖, 小林修三：特別企画5 透析患者の下肢慢性創傷に対する抗生剤療法の実際. 第6回日本下肢救済・足病学会学術集会, 札幌, 2014.
- 21) 小林修三：ランチョンセミナー62 知っていますか？透析関連低血圧の原因と対策. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 22) 日高寿美：ランチョンセミナー38 Save the Legs Project 透析患者に潜む本当に怖い下肢動脈疾患～その靴下を脱がせてみませんか？～透析室での早期発見の為に取り組みと工夫. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 23) 小林修三：ここまでできる透析患者のフットケア～末梢動脈疾患の早期発見と集学的治療～. 学術講演会, 横浜, 2014.
- 24) 小林修三：CKDから透析における心血管障害と石灰化～炭酸ランタンの効果～. 香川県高リン血症治療研究会, 高松, 2014.

- 25) 小林修三：CKDから透析における心血管障害と石灰化～炭酸ランタンの効果～. CKDマネジメントフォーラム2014, 福井, 2014.
- 26) 小林修三：透析患者におけるPAD～早期発見と治療戦略～第11回茨城フットケア研究会, 水戸, 2014.
- 27) 大竹剛靖：各種病態における体液管理. 第14回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
- 28) 小林修三：Work Loadと尿細管間質障害～基礎から臨床へ. 第18回腎間質障害研究会, 東京, 2014.
- 29) 小林修三：透析患者におけるPAD～早期発見と治療戦略～庄内透析療法学術懇話会, 酒田, 2014.
- 30) 小林修三：医工連携による恩恵～LDLアフェレシスを中心に. 第20回山形県臨床工学会, 天童, 2014.
- 31) 小林修三：糖尿病・慢性腎臓病における末梢動脈疾患～早期発見と治療戦略. 第12回下肢の創傷治癒を考える会(香川Podiatryミーティング), 高松, 2014.
- 32) 小林修三：足は全身の鏡～末梢動脈疾患(PAD)の早期発見と治療～末梢動脈疾患(PAD)講演会in TOYAMA, 富山, 2014.
- 33) 小林修三：透析患者のPAD～早期発見と治療戦略. 第55回日本脈管学会総会, 倉敷, 2014.
- 34) 小林修三：日本フットケア学会のあゆみと今後の展望. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014.
- 35) 小林修三：TPP市場での混合診療の解禁, 日本を代表する私立病院は今後の医療施策をどのように考えるか? 第2回国民健康ゲノムセミナー, 東京, 2014.
- 36) 小林修三：足は全身の鏡～末梢動脈疾患(PAD)の早期発見と治療～栃木県透析合併症講演会, 宇都宮, 2014.
- 37) 日高寿美：多発性のう胞腎～のう胞腎外来を立ち上げて～. m3.com Web講演会, 2014.
- 38) 日高寿美：アフリカでの透析センター立ち上げの経験. 第5回北海道W.I.N(women in nephrology)学術講演会, 札幌, 2014.
- 39) 日高寿美：多発性のう胞腎～のう胞腎外来を立ち上げて～. 横浜ADPKDセミナー, 横浜, 2014.
- 40) 小林修三：ここまでできる透析患者のフットケア～末梢動脈疾患の早期発見と集学的治療～. 第18回秋田腎不全研究会, 秋田, 2014.
- 41) 小林修三：ランチョンセミナー37 透析患者における心血管合併症管理の意義～診療実態調査から見える現在の課題と今後～第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 42) 守矢英和：ランチョンセミナー37 透析患者における心血管合併症管理の意義～診療実態調査から見える現在の課題と今後～. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 43) 大竹剛靖：ランチョンセミナー45 透析患者の動脈硬化合併症～リン吸着薬選択の重要性～. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 44) 小林修三：足は全身の鏡. 栃木県透析合併症講演会, 宇都宮, 2014.
- (2) シンポジウム・ワークショップ
- 1) 小林修三：ワークショップ 透析患者の血圧管理を考える JSDTガイドラインと今後の課題. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 2) 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三：ベリックセミナー 透析患者の高血圧と治療～ドライウエイトの設定. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.

- 3) 大竹剛靖, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: シンポジウム4 透析症例の重症下肢虚血に対する治療戦略～透析患者CLIの特徴～. 第6回日本下肢救済・足病学会学術集会, 札幌, 2014.
- 4) 大竹剛靖, 小林修三: シンポジウム2 ネフローゼ症候群の浮腫の病態と体液管理. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 新宿, 2014.
- 5) 小林修三: シンポジウム 糖尿病性腎症の完治を目指して 糖尿病性腎症ネフローゼ症候群に対する先進医療A～LDL吸着の効果. 第26回日本糖尿病性腎症研究会, 東京, 2014.
- 6) 守矢英和: シンポジウム4 LDLアフェレシスの新たな作用機序と臨床応用 PADに対するLDLアフェレシスの効果. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.

(3) 国際学会

- 1) Hidaka S, Tokumoto T, Moriya H, Ohtake T, Mwanatamwe M, Kobayashi S: Nephrology Programs in Sub-Saharan Africa ~Experience and Problems confront Us～. 7th Congress of the International Society for Hemodialysis, Okinawa, 2014.

(4) 国内学会

- 1) 持田泰寛, 松浦亮, 長谷川正宇, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 甲状腺クリーゼ, 心肺蘇生後に伴う多臓器不全に対して血漿交換が奏功した1例. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.
- 2) 佐藤淑, 北川泉, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 鉍質コルチコイド反応性低Na血症

(MRHE)にFanconi症候群を合併した高齢女性の1例. 医学生・研修医の内科学サミット2014 第111回日本内科学総会・講演会サテライトシンポジウム, 東京, 2014.

- 3) 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 慢性腎臓病患者におけるTolvaptan投与での尿量増加に関連する因子の検討, 第111回日本内科学会講演会, 東京, 2014.
- 4) 古旗省吾, 須釜典子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 高リン血症のPD患者に対してビールの銘柄に関する具体的な栄養指導により血清リン値に改善がみられた一例. 第20回腹膜透析医学会 学術集会・総会, 山形, 2014.
- 5) 須釜典子, 坊坂桂子, 篠原裕, 高野沙織, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 腎臓教室による腎機能低下の抑制効果について. 第17回日本病態栄養学会学術集会, 大阪, 2014.
- 6) 日高寿美, 須釜典子, 高橋聖子, 守矢英和, 大竹剛靖, 小林修三: 血液透析患者において上腕筋面積の変化は予後を予測する因子である. 第17回日本病態栄養学会学術集会, 大阪, 2014.
- 7) 守矢英和, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 透析患者の末梢動脈疾患に対するLDLアフェレシスの長期成績. 第35回日本アフェレシス学会学術大会, 東京, 2014.
- 8) 守矢英和, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 透析患者の末梢動脈疾患に対するLDLアフェレシスの長期成績. 第55回日本脈管学会総会, 倉敷, 2014.

- 9) 持田泰博, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 腎生検後に対側腎の出血でショックを呈するも, 救命しえた多発血管炎性肉芽腫症の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 新宿, 2014.
- 10) 守矢英和, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 免疫複合体の沈着を伴うANCA関連全身性血管炎の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 新宿, 2014.
- 11) 松浦亮, 田村友美, 吉田輝彦, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 腎機能悪化により著明な高C1性代謝性アシドーシスが出現した膀胱癌術後の79歳男性1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 新宿, 2014.
- 12) 真栄里恭子, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: PMMA膜によりWBC減少とCRP改善を認めたループス腎炎由来血液透析患者の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 新宿, 2014.
- 13) 石岡邦啓, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: *Enterococcus faecalis* による感染性心内膜炎 (IE) を反復し急性腎不全を来した1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 新宿, 2014.
- 14) 愛甲美穂, 五十嵐愛子, 塩野恵美子, 坊坂桂子, 山下昭二, 日高寿美, 小林修三: 透析患者のPADリスク分類 (鎌倉分類) ~透析支援システムを利用したフットケアプログラムの運用~. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 15) 長谷川正宇, 松浦亮, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 維持透析患者における睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の関連因子の検討. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 16) 石岡邦啓, 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 維持血液透析患者におけるMIA症候群と下肢末梢動脈疾患 (PAD) との関連. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 17) 守矢英和, 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 慢性維持血液透析患者における大動脈弁狭窄症手術の予後に関連する因子の検討~収縮期血圧の重要性~. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 18) 真栄里恭子, 長谷川正宇, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 血液透析患者における血清葉酸値についての検討. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 19) 中島みなみ, 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: ガルバマゼピン中毒に対しハイパホーマンス透析膜を用いた血液透析により救命し得た一例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 20) 持田泰寛, 松浦亮, 長谷川正宇, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 当院における腹膜透析 (PD) +血液透析 (HD) 併用療法の検討. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
- 21) 日高寿美, 増田ゆう, 松浦亮, 長谷川正宇, 真栄里恭子, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守

矢英和, 大竹剛靖, 小林修三: 血液透析 (HD) 患者の血圧と血小板活性化・血管内皮機能との関連について. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.

22) 大竹剛靖, 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: GCSF動員末梢単核球細胞移植を施行した当院下肢末梢動脈疾患 (PAD) 患者の予後に関する検討. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.

23) 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 急性前骨髄性白血病を合併した高齢維持透析患者の一例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.

24) 守矢英和, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 糖尿病合併症血液透析患者のリスク評価に週平均化血圧: WAB (Weekly Averaged blood Pressure) は有用である. 第37回日本高血圧学会総会, 横浜, 2014.

25) 石岡邦啓, 田村友美, 松浦亮, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: トロンビン製剤による後天性凝固因子欠乏症を来した透析患者の一例. 第25回日本急性血液浄化学会学術集会, 千葉, 2014.

26) 若林奈々, 高橋聖子, 三宅哲, 望月弘彦, 大竹剛靖, 小林修三: 経管栄養剤の差異が心臓血管手術後の栄養状態に及ぼす影響. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014.

(5) 研究会

1) 持田泰寛, 松浦亮, 長谷川正宇, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大

竹剛靖, 小林修三: 腹膜透析 (peritoneal dialysis;PD) 腹膜炎における排液培養方法の検討. 第28回神奈川県CAPD研究会, 横浜, 2014.

2) 角谷拓也, 松浦亮, 長谷川正宇, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 慢性骨髄性白血病 (CML) に対し第2世代チロシンキナーゼ阻害薬服用中の血液透析患者に併発したウイルス性心筋炎の一症例. 第87回神奈川腎研究会総会・研究集会, 横浜, 2014.

3) 日高寿美: 当院における嚢胞腎治療について. 湘南ADPKDセミナー, 鎌倉, 2014.

4) 石岡邦啓: 糖尿病透析患者の血糖管理. 第12回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.

5) 松浦亮: 当院で経験した先行的腎移植の1例. 第13回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.

6) 日高寿美: IDPN (intradialytic parenteral nutrition) 施行により著明な血糖変動をきたした血液透析 (HD) 患者の1例. 第17回神奈川NSTフォーラム, 横浜, 2014.

7) 日高寿美: 当院における嚢胞腎治療について. サムスカ適応追加講演会, 相模大野, 2014.

8) 石岡邦啓, 田村友美, 吉田輝彦, 松浦亮, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 糖尿病透析患者の血糖管理〜CGMからみた血糖マーカーの意義〜. 腎周辺疾患セミナー, 横浜, 2014.

9) 大竹剛靖: 透析患者のフットケアとチームで行う足病診療. 第20回糖尿病フットケア研究会, 東京, 2014.

(6) 座長・司会・開会の辞

1. 小林修三: 座長 特別講演 第8回末梢循環セミナー. 一腎不全・糖尿病のリムサルベージを考

- える会, 横浜, 2014.
2. 小林修三: 座長 特別講演. 第10回CKD Conference in Kamakura, 鎌倉, 2014.
3. 小林修三: 座長 講演Ⅲ. 透析患者のQOLを考える会, 横浜, 2014.
4. 日高寿美: 座長 特別講演 第18回TFDセミナー, 東京, 2014.
5. 小林修三: 座長 ランチョンセミナー3 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.
6. 小林修三: 座長 シンポジウム4 LDLアフェレンシスの新たな作用機序と臨床応用. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.
7. 大竹剛靖: 座長 特別講演5 心血管再生医療からみた再生医療の過去・現在・未来. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.
8. 日高寿美: 座長 よくわかる講座3 PADスクリーニング. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.
9. 日高寿美: 座長 腎臓4 医学生・研修医の内科学サミット2014. 第111回日本内科学総会・講演会サテライトシンポジウム, 東京, 2014.
10. Sumi Hidaha: Chair Symposium 3 Implementation of Dialysis Therapy 7th Congress of the International Society for Hemodialysis, Okinawa, 2014.
11. 小林修三: 座長 パネルディスカッション JSH2014を臨床の場でどう生かす. 高血圧治療ガイドライン2014指定講演会, 川崎, 2014.
12. 小林修三: 司会 ランチョンセミナー37. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
13. 小林修三: 司会 ベーシックセミナー5. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
14. 石岡邦啓: 座長 CKD/PAD1. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014.
15. 小林修三: 座長 生命予後から考えるCKD-MBD治療の選択法. 平成26年度透析療法従事職員研修, 神戸, 2014.
16. 小林修三: 座長 特別講演Ⅱ. 第7回CKD&DM SUMMER SEMINAR in Kamakura, 鎌倉, 2014.
17. 守矢英和: 座長 特別講演Ⅰ. 第7回CKD&DM SUMMER SEMINAR in Kamakura, 鎌倉, 2014.
18. 守矢英和: 座長 一般演題 口演16 診断・検査・病態・薬物療法. 第6回日本下肢救済・足病学会 学術集会, 札幌, 2014.
19. 日高寿美: Opening Remarks. 第12回SK腎セミナー, 2014.
20. 守矢英和: 座長 一般演題. 第12回SK腎セミナー, 2014.
21. 大竹剛靖: 座長 特別講演. 第12回SK腎セミナー, 2014.
22. 小林修三: Closing Remarks. 第12回SK腎セミナー, 2014.
23. 大竹剛靖: オープニングリマークス. 第13回SK腎セミナー, 2014.
24. 守矢英和: 座長 一般演題Ⅰ. 第13回SK腎セミナー, 2014.
25. 日高寿美: 座長 一般演題Ⅱ. 第13回SK腎セミナー, 2014.
26. 小林修三: クロージングリマークス. 第13回SK腎セミナー, 2014.
27. 大竹剛靖: 開会の辞. 湘南地域DIC講演会, 2014.
28. 小林修三: 閉会の辞. 湘南地域DIC講演会, 2014.
29. 小林修三: Opening Remarks CRITICAL CARE NEPHROLOGY勉強会. 湘南鎌倉総合病院, 2014.
30. 守矢英和: 座長 特別講演1 CRITICAL CARE NEPHROLOGY勉強会, 湘南鎌倉総合病院, 2014.
31. 日高寿美: 座長 特別講演2 CRITICAL CARE NEPHROLOGY勉強会, 湘南鎌倉総合病院, 2014.

32. 大竹剛靖：Closing Remarks. CRITICAL CARE NEPHROLOGY勉強会, 湘南鎌倉総合病院, 2014.
33. 小林修三：司会 ランチョンセミナー29. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014.
34. 小林修三：閉会の辞. 第11回腎と心血管障害研究会, 東京, 2014.
35. 小林修三：座長 特別講演. 湘南ADPKDセミナー, 鎌倉, 2014.
36. 守矢英和：Opening Remarks. 第14回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
37. 岡真知子：座長. 第14回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
38. 石岡邦啓：座長. 第14回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
39. 日高寿美：座長. 第14回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
40. 小林修三：Closing Remarks. 第14回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
41. 小林修三：Closing Remarks. 睡眠時無呼吸症候群セミナー, 鎌倉, 2014.
42. 大竹剛靖：Opening Remarks. 第15回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
43. 守矢英和：座長 一般講演. 第15回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
44. 日高寿美：座長 特別講演. 第15回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
45. 小林修三：Closing Remarks. 第15回SK腎セミナー, 鎌倉, 2014.
46. 小林修三：座長 セッション2. 第18回腎間質障害研究会, 東京, 2014.
47. 小林修三：司会 ランチョンセミナー4. 第11回日本フットケア学会 鹿児島セミナー, 鹿児島, 2014.
48. 小林修三：座長 基調講演 ホスレノール発売5周年記念講演会, 横浜, 2014.
49. 日高寿美：司会 一般演題21 循環器系疾患. 第35回日本アフェリシス学会学術大会, 東京, 2014.
50. 小林修三：座長 特別講演. N型カルシウムチャネル研究会, 横浜, 2014.
51. 小林修三：司会 特別講演Ⅱ 糖尿病フットケア. 第20回糖尿病フットケア研究会, 東京, 2014.

(7) ディスカッション・ワークショップ

1. 高田みづえ, 小林修三, 水内恵子：パネルディスカッション. CKDセミナーin神奈川, 横浜, 2014.
2. 石岡邦啓：症例ディスカッション. 湘南diabetes conference, 藤沢, 2014.
3. 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三：パネルディスカッション1-2 CLI患者の生命予後改善のために(透析医からの提言). 第6回日本下肢救済・足病学会・学術集会, 札幌, 2014.

(8) 著書

1. 愛甲美穂, 日高寿美, 小林修三：1局所治療の前に 3) 透析 最新版 ナースのための糖尿病フットケア技術 メディカルレビュー社:182-189. 2014.
2. 小林修三：Modern Physician 4 Vol.34 No.4 特集 全身病としての足病変～プライマリケア医にできること～ 2014 株式会社新興医学出版社, 2014.
3. 小林修三：あらゆる診療科で役立つ！腎障害・透析患者をうけもったときに困らないためのQ&A, 羊土社, 2014.

(9) 総説

- 1) 大竹剛靖, 小林修三: 2 腎臓病専門医はどう診るか Modern Physician Vol.34 No.4 2014-4 株式会社新興医学出版社: 379-382. 2014.
- 2) 日高寿美, 小林修三: 1抗血小板薬 Modern Physician Vol.34 No.4 2014-4 株式会社新興医学出版社:411-417. 2014.
- 3) 小林修三: 3学会関連の動きなど Modern Physician Vol.34 No.4 2014-4 株式会社新興医学出版社:423-426. 2014.
- 4) 小林修三: 透析患者の下肢閉塞動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. 大阪透析研究会会誌 第32巻1号: 1-6. 2014.
- 5) 小林修三: 透析 透析中の合併症 末梢動脈疾患-PAD- 透析・腎移植のすべて 腎と透析 2014 Vol.76増刊号 東京医学社: 309-313. 2014.
- 6) 富山周作, 松浦亮, 杉本栄康, 角谷拓哉, 平田有美恵, 吉田輝彦, 守矢英和, 北川泉: 咳が持続, 呼吸困難感でERを受診 日経メディカル 7月号 日経BP社: 108-112. 2014.
- 7) 小林修三: 第8章 合併症 4. 認知症1. 透析患者の脳血流と認知症～SPECTを用いた検討を中心に～ 透析医学 医薬ジャーナル社: 609-612. 2014.
- 8) 小林修三: 臨床研究にみる腎と高血圧 糖尿病合併 VA NEPHRON-D 試験 腎と透析 Vol.77 No.4 東京医学社: 650. 2014.

(10) 原著

- 1) Ohtake T, Sato M, Akazawa R, Kondoh M, Miyaji T, Moriya H, Hidaka S, Kobayashi S.: Randomized Pilot trial between prostaglandin I2 Analog and anti-platelet drugs on peripheral arterial disease in hemodialysis patients. Ther Apher Dial. 2014 Feb; 18(1): 1-8. 2014.

- 2) 角谷拓哉, 松浦亮, 大竹剛靖, 守矢英和: CASE STUDY 湘南鎌倉総合病院 内科・ER合同カンファレンスから 呼吸苦と体動困難で救急受診. NIKKEI MEDICAL 2014. 03: 107-111. 2014.
- 3) 大竹剛靖:腎・透析ガイド～学術セミナーレポート～第2回神奈川腎・透析研究会 一般演題 透析患者の動脈硬化性合併症～血管石灰化の抑制は可能か? 医薬の門 Vol.53 No.6 2013: 24-26. 2014.
- 4) 山口絵美, 大竹剛靖, 後藤裕子, 高橋聖子, 野澤陽子, 高橋尚子, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: 腹膜透析 (PD) 患者における生体電気インピーダンス分析 (BIA) を用いた栄養評価～PD駆貯留の影響の検討～ 日本病態栄養学会誌17 (1): 89-98. 2014.
- 5) 小林修三: 透析患者における血圧管理～薬物療法を中心に 兵庫県透析医会会誌 第26巻30周年記念誌 5-12. 2014.
- 6) Kobayashi S.: Treatment strategies for PAD in CKD patients: its characteristics and importance of early detection-findings from the Japanese J-PADD study. Annals of Vascular Diseases Vol.7, No.2 June 2014: 214-217. 2014.
- 7) Oka M, Mochizuki T, Kobayashi S: A novel mutation of the PKD2 gene in a Japanese patient with autosomal dominant polycystic kidney disease and complete situs inversus. Am J Kidney Dis. 2014 Oct; 64(4):660. 2014
- 8) Isshiki R, Kobayashi S, Iwagami M, Tsutumi D, Mochida Y, Ishioka K, Oka M, Maesato K, Moriya H, Ohtake T, Hidaka S.: Cerebral blood flow in patients with peritoneal dialysis by an easy Z-score imaging system for brain perfusion single-photon emission tomography. Ther Apher Dial. 2014 Jun;

18(3):291-296. 2014.

- 9) Kobayashi S, Mochida Y, Ishioka K, Oka M, Maesato K, Moriya H, Hidaka S, Ohtake T. : The effects of blood pressure and the renin-angiotensin-aldosterone system on regional cerebral blood flow and cognitive impairment in dialysis patients. *Hypertens Res.* 2014 Jul; 37(7):636-641. 2014.
- 10) 日高寿美, 小林修三 : 透析医療現場におけるフットケア *MEDICAMENT NEWS* 株式会社ライフ・サイエンス : 11-12. 2014.